

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 泰斗福祉会	施設長 代表者	近藤 浩之	法人・ 事業所の 特徴	<法人の方針> ・私たちは、利用される方々の生活をスタッフが丸となって支え、共に笑顔のある毎日が送れるよう支援します。 ・私たちは、人が集まり、支え合い、開放感のある時間を共有して誰にも開かれた当たり前の生活を地域の皆様と共につくっていきます。 ・「風早に行けば何とかしてくれる」と思っていたようなサービスを提供します。 職員は、上記の理念を常に念頭に置き、行動します。
事業所名	小規模多機能 にじいろ	責任者 管理者	杉森 理代 ・ 宮本 武		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1	1	3	0	1	1	0	3	0	10

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	各運営推進会議を活用しながら、改善計画についての取り組みや現状の課題等を随時発表していきます。また外部評価に関連した内容や項目に沿って、事前に分かりやすく説明した上で、地域かかわりシートを配布していきます。	運営推進会議を事業所内で開催する事で、現場職員一人ひとりにも内容を理解することができました。各運営推進会議で事業所の取り組みや課題を発表できました。具体的に、連泊されているご利用者の今後について意向を確認し、個々に合わせた行き先を前向きに話を進める事ができました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全員での情報共有が出来ていない様子だ。必要な共有があれば時間を作って話し合いを行う必要がある。また、意見が出しやすい環境づくりが必要。</li> <li>・質問に対して、職員によって捉え方に違いが見られる。意識共有していく必要がある。</li> <li>・計画内容や実践内容が抽象的で分かりにくい。具体的に行った事、行う事を記載すれば分かりやすくなるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニカンファレンスを月に2〜3回開催する。</li> <li>・選出職員が来た時点でその日の申し送りを行う。</li> <li>・話し合い時には、伝えるべき内容を正確に伝え、また、相手に伝わっているか確認し合いながら進める。</li> <li>・毎月行われる職員会議で運営内容や課題について話し合い、それらを運営推進会議で報告する。また、運営推進会議で出た意見を職員会議にて報告し検討する。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・ 環境	地域の方々に足を運んで頂けるよう、明るく入りやすい雰囲気作りに努めていきます。具体的に、事業所内外を自由に行き来できるよう、扉を開放します。入り口は施設の顔であり、来訪者への丁寧な対応は継続していきます。また事業所の入り口が分かりやすいように玄関入り口に看板を立てかけます。	以前に比べ、地域の方々に声かけ等行う回数が増えた為、知名度が少しずつ上がって来ています。職員の住んでいる地区の住民に「にじいろはどんなサービスがありますか？」と聞かれ、小規模のサービスや特養との違いを説明することができました。来訪者に対し、丁寧な対応はできました。看板の代わりに事業所の前に職員の顔写真のボードを作りました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の改善計画に取り組んでいる姿は見られる。</li> <li>・顔写真のボードはとても分かりやすくてよいことだ。</li> <li>・入り口にパーテーションが置かれている時があった為入りづらかった。利用者や家族が出入りしやすい環境づくりが必要。</li> <li>・職員が研修にあまり参加できていないのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入口のパーテーションはしないようにする。徘徊のある利用者につき添い、フロアを離れる際には見守りや介助を適切に行う。また、利用者の状態を日頃から観察し、本人が安心できる対応を心掛ける。</li> <li>・研修は勤務表の中に入れ必ず参加できるように工夫する。</li> </ul>
C. 事業所と地域の かかわり	今後も継続して、ほのぼのの新聞や運営推進会議を通して、事業所内で行っているサービス内容を分かりやすく説明していきます。「いきいきカフェ」に来られた方に事業所を紹介したり、地域に発信していきます。	定期的にいいききカフェ(認知症カフェ)に参加し、地域の方々と関わる事ができました。地区のお店やお祭りで住民にお会いした際、「～が楽しかった。こんなことを知りたい。」等実際の生の声も聞くことができました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が地域の社会資源についてもっと知るべきだ。(公民館や集会所、地域行事)</li> <li>・地域の方から苦情や提案をもっと出してもらえるような関係作りや工夫が必要。</li> <li>・いきいきカフェに利用者や家族が参加できれば良い。にじいろとしての取り組みが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人一人のケアプランに地域の人達と交流できる機会や場面を盛り込む。</li> <li>・利用者の家族にも声をかけし、地域交流の場に参加してもらう。</li> <li>・地域交流の場に職員が交代で参加し、来られている方と話をしたり、少しでも顔と名前を覚えてもらえるような働きかけを行う。</li> </ul>

D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	ご利用者を連れて、その方が暮らしている地域に向いて行きます。また連続の宿泊サービスを利用されている方は、菟木地区の新しい関係作りを支援していきます。具体的に、前回同様に、公民館祭りや施設交流会に参加し、地域との関係が切れずに継続できるよう支援します。	ご利用者を連れて、その方が暮らしている地域に向くことは、あまりできませんでした。施設交流会に参加でき、関係が途切れないように支援できました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者個別のエコマップを作成し、利用者の住んでいる地域での関わりを増やしていくべき。実現可能な具体的な計画を立てる必要がある。</li> <li>・事業所の所在地域でも、道路や危険箇所の把握を行い、利用者が安心安全に外出できるように工夫する必要がある。事業所の中だけで活動している様子が伺える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の家族とカンファレンス時、エコマップなどを利用しながら、利用者が近所の誰と仲良かったのか、どういう関わりをしていたかなどを聞き取り、その方達と本人が話せる時間を作れるよう家族と協力する。</li> <li>・事業所の所在地域内の危険場所などについて、送迎時に職員が気付いたこと等ヒヤリハットについて記録を行う。(地域ヒヤリハットマップ作製)</li> <li>※散歩など外出時にも活用する。</li> </ul>
E. 運営推進会議を活かした取組み	今後も、ほのぼの新聞や運営推進会議を通して、事業所内の活動状況や雰囲気をつよく伝えていきます。また改善点を次回の運営推進会議にて報告したり、事例検討等、事業所内の運営について説明していきます。	ほのぼの新聞や運営推進会議を通して、事業所内の日々の活動や運営状況を説明しました。運営推進会議やご家族から出た意見、苦情を職員会議等で振り返ることができました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の現状や困りごと、地域への相談事項等を具体的に地域の方に発信する必要があります。また、地域からの相談等も活発に出るような関係作り、取り組みが必要だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議で出された意見はすぐに職員で話し合う。また、地域の方から介護の事などなんでも相談してもらえる事業所になれるよう、職員個々が自ら挨拶し事業所のサービス内容の説明や相談に乗れる関係作りを心がける。</li> </ul>
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練開催時には、地域の方がたくさん参加して頂けるよう呼びかけ等「いきいきカフェ」等を通じて積極的に協力・参加します。引き続き、地域の方に協力を得られるように日頃から何かあった時はお互いが助け合える関係を作り、地区会長との連携を図っていきます。	昨年、11月の消防避難訓練以外、運営会議等を通して、災害時近隣の人々と連携し協力していくことが以前より出来るようになっていきました。また、事業所内では緊急時の電話連絡網の訓練を行い、防災に対する意識を高めることができました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との合同防災訓練を今後も継続してほしい。事業所からの参加もだが、地域からも参加人数を増やす努力をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、新しく入職した職員に防災、災害対策を知ってもらうべく、事業所の避難計画書及び地域の防災について勉強会を行い、合同防災訓練に参加してもらう。</li> <li>・運営推進会議で事業所の避難計画や訓練内容等について説明し、必要な助言を受ける。(年1回は実施)</li> <li>・合同防災訓練を行う際には、事前に菟木地区の住民に参加案内の広報を行う。(回覧板、組長会資料等)</li> </ul>